

「病と死を支配される主」

第三ガリラヤ伝道 ③
マルコの福音書 5:21～43

人は必ず死ぬものである。生まれや育ち、能力や財力に全く関係なく、平等に「死」は訪れる。しかし漠然とした「死」も恐ろしいが、「死」に結びつく「病」は身近で、私たちに「死」を予感させる。それで、良い医者や薬を探し頼ろうとするのである。病気が治らなければ、私たちは悩み苦しむが、実は、生命を^{つかさど}り、支配するのは、神である主イエス・キリストなのである。

再び湖の対岸、カペナウムに戻られ、ヤイロが来るのを待ち、湖のほとりで祈られる主イエスの姿を見る。ヤイロは神である主イエスの無限の力が「長年の病」を癒す事件を目撃した。

「恐れなくて、ただ信じていなさい！」との主のみことばは、娘の死の知らせに絶望しそうになるヤイロを励まし、彼は主イエスを家に迎え入れた。主イエスに期待する心は、信仰へと変わっていった。主イエスは娘の生命を「死」から取り返して下さったのである。

この主イエスを、私の主と受け入れ、一緒に歩いて頂ける者は何と幸いな人だろうか。やがて訪れる自分自身の死も、主イエスは共に歩き、永遠のいのちへと導いて下さるのである。

[聖書の学び]

I、ヤイロと一人の女の願い

1、ヤイロの娘の状態 (マルコ 5:22)

①12歳の娘。(v23)

②ヤイロはどのように願ったのでしょうか。(v23)

会堂司(会堂管理者)・・・長老たちの合議制により運営されている会堂において、その長老の内一人が、会堂管理者として任命された。安息日ごとに行われる聖書朗読、その説き明かしを祭司やラビに依頼し、礼拝に関わる全てを担った。

2、後ろから主イエスに触った女の状態 (マルコ 5:26)

①彼女は12年間も婦人病に苦しんでいた。

- ・持ち物を全部つぎ込んで直らない。
- ・医者にだまされて精神的なダメージを受ける。
- ・病気は悪くなる一方。

婦人病(今で言う子宮筋腫など)
女性は出産のため男性とは違う体が備えられ、そのため出血することが多い。当時、出血している者は不浄な者、汚れた者とされ、儀式や大勢での集まりへの参加は禁止されていた。

②人前に出られない彼女の思い

- ・最後の期待を主イエスにかける。
- ・へりくだる女＝自分のような者は、面と向かってお願いできるような者ではない。

Ⅱ、主イエスから出る、病を癒す力 (マルコ 5:25～34)

1、主イエスの無限の力を引き出す秘訣。

①信仰をもって主イエスに触る。(v28)

②たとえば、主イエスの意志ではなくても、癒やされるのだろうか？

2、無限の神の愛を持たれる主イエス (v30)

- ・ご自分に来る者を、癒さずにいることなど出来ない主イエス
- ・癒しの業をされるときには、主イエスには自分から力が出ていくのが分かる。

3、癒やされたら、主イエスはその証しを求められる。(v30,31)

Ⅲ、主イエスの復活の力 (マルコ 5:35～43)

1、ヤイロに知らされた娘の訃報

①即座の主イエスのみことば (v36)

②ヤイロは死んだ娘の所に主イエスを案内した。

2、信じる者と信じない者

①取り乱す人々に主は奇跡を予告された。(v39,40)

②信じる者の祈りや信仰を必要とされる主。

同席を許されたのは両親と三人の弟子のみ。(v37,40)

③手を取り、娘に命じられた主イエス。(v41)

④自然を超える主の復活の力と、平常の自然の業を祝福される主 (v43)

*** ディスカッション** (心を開いて互いに話し合ってみましょう)

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。